

2020年10月7日
損害保険ジャパン株式会社
株式会社プライムアシスタンス

青森市×フィリップス “ヘルステックを核とした健康まちづくりプロジェクト” あおりヘルステックコンソーシアムへの参画 ～ヘルスケア領域におけるMaaSの取組み～

損害保険ジャパン株式会社（取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）と株式会社プライムアシスタンス（取締役社長：徳岡 宏行、以下「プライムアシスタンス」）は、青森市と株式会社フィリップス・ジャパンが、青森市民の健康寿命延伸を基本コンセプトとして取り組む「ヘルステックを核とした健康まちづくりプロジェクト」（以下「本プロジェクト」）の事業推進体である「あおりヘルステックコンソーシアム」に協力企業として参画しました。

青森市浪岡地区をモデル地区とした事業プランの一つである、「モビリティを活用した予防サービス」に、プライムアシスタンスが運営する認知症サポート「SOMPO笑顔倶楽部^{※1}」の認知機能チェック^{※2}を導入することで、本プロジェクトが目指す市民の健康寿命延伸に貢献していきます。

※1 2018年10月に開始し、認知機能低下・MCIの早期発見、認知機能低下を予防するための取組み、認知症になった場合の適切なケア等を支援するための情報提供、サービス紹介等を行っています。

SOMPO笑顔倶楽部：<https://www.sompo-egaoclub.com/top/index>

※2 約5分で日々の生活で使われる記憶力・言語力・注意力・計算力・遂行力の認知機能の確認ができます。診断ツールではありません。

1. 本プロジェクトの背景

人口減少や高齢化、老人慢性疾患の増加による疾病構造変化や、医療を必要とする重度の要介護者、認知症高齢者の増加など、医療・介護ニーズの増大が見込まれる中、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、バランスの取れた医療・介護サービスの提供体制を構築することや、市民の方々の健康づくりに寄与する「自助」「互助」「共助」の仕組みの深化が大切になってきます。

そこで、青森市と株式会社フィリップス・ジャパンは、地域包括ケアや市民の健康づくりを「ヘルステック」で支援し、浪岡地区をモデル地区とする本プロジェクトを進めていくこととなりました。

2. 今年度から実施する本プロジェクトの概要

本コンソーシアムでは、浪岡地区をモデル地区として、以下の事業プランを実施します。

(1) モビリティを活用したフレイル[※]/生活習慣病の予防サービス

要介護手前の高齢者や働き盛り世代へ簡易ヘルスチェックと予防プログラムを提供します。

モビリティを活用して様々な場所でフレイル/生活習慣病の予防サービスを実施できることで従来健康への意識が高くない方々へも予防を促していきます。

※日本老年医学会が提唱した要介護に至る高齢者の心身機能の低下を示す概念。

(2) IoTを活用した独居高齢者/訪問看護利用者見守り向けみまもりサービス

自宅での生活/生体データを活用した24時間遠隔みまもりを追加した新たな高齢者・在宅患者サポートモデルです。IoTを活用することで、今後加速していく在宅医療への機能化・高度化をはかっていきます。

【事業プランイメージ】



※新・青森市立浪岡病院内に設置される、健康に関するデータを蓄積・分析する拠点。

3. 当社グループの役割

損保ジャパンおよびプライムアシスタンスは、本プロジェクトのうち、「2. (1) モビリティを活用した予防サービス」において、「SOMPO笑顔倶楽部」の機能の1つである認知機能チェックをご提供いたします。フレイルに加えて認知機能の低下にも留意することが、市民の健康寿命延伸に向けてさらに意義のある取り組みであると認識しています。具体的には、簡易ヘルスチェックを実施する会場において、パソコンまたはタブレットで認知機能チェックを実施していただきます。

今後も、ヘルスケア×Maasの取り組みを通じて、健康な街づくりに貢献します。

【役割】

事業者	役割
青森市	プロジェクト統括、事業主体
株式会社フィリップス・ジャパン	青森市と共同によるプロジェクト統括として、企画立案・プロジェクトマネジメント・データ分析など
損害保険ジャパン株式会社	モビリティを活用した予防サービス（認知症予防）への参画
株式会社プライムアシスタンス	「SOMPO笑顔倶楽部」の認知機能チェックサービス提供

上記の他、9社が本コンソーシアムに参画しています。